

令和6年度 宗像の郷中央学園

宗像市立中央中学校広報 校長挨拶

令和6年5月23日

日頃から、本校の教育活動に対し、御理解と御協力を頂き、厚くお礼を申し上げます。

「学校には何を学びに来てるの？」と生徒に問いかけると様々な答えが返ってきます。しかし、どの答えも最上位目的は、「幸せになりたい」なのです。

幸せになるために勉強する。あたりまえの答えですが…ではその幸せとは？何でしょう？作家の木下晴弘さんがこんなお話をされていました。たくさんの卒業生に今の自分の人生についてどう考えているかを質問していったそうです。するとある一つの大きな発見があったそうです。

それは、幸せ感あふれる人生を歩んだ人は全員が、他人の喜びを我が喜びとする価値観を持っていたという発見です。

一方、自分は不幸だと認識している人たちはみんな己の喜びが最優先の人生を生きていたそうなのです。いいものが食いたい、いい服が着たい、いい車に乗りたい、愛されたい、認められたい、昇進したいなどなど。不幸な人生を歩んでいた教え子たちは、自分のことしか考えていなかったそうなのです。

さらに木下さんはこうおしゃっています。身に付けた力で他人を幸せにできたとき、人は初めて幸せになれる。学歴は無力です。役に立ちません。でも勉強は大事です。

なぜなら、人を喜ばせるには、相手ができないことを支援してあげるのが一番だからです。相手ができないことを支援するためには、高い技術力が求められます。高い技術力を身に付けるためには、勉強や努力をするしかないのです。

でも、たとえ勉強家や努力家であっても、幸せ感の少ない人生を歩んでいる方はごまんといらっしゃいます。この違いはたった一つ、他人の喜びを我が喜びとできるかどうかだったそうです。みなさんは、どうですか???

人に喜びを与える人生こそ、幸せな人生なんですね。

私は、このお話を聞いてからは、学校とは人を幸せにすることを学ぶ場所であるという自分なりの定義をもつようになりました。自分の好きなことで周りの人を幸せにして感謝され、おまけに報酬を得られたら本当に素敵だと思い、子どもたちにもそのために学校で学んでほしいと願うようになりました。

しかしながら、変化の激しい時代です。子どもたちの社会力の形成は、学校だけでは、決してうまくいきません。家庭・地域という土台があって初めて学校教育も大きな成果を得ることができると考えます。子どもの「自律を育む大人のかかわり」の基盤があってこそ、達成できると考えます。そのためにも、皆様の御理解と御協力を賜り、ベクトルをそろえることが不可欠です。中央中が今まで以上に保護者と学校の一体感をより一層強いものになることを願って、校長の挨拶とさせていただきます。今後とも、どうぞよろしく願いいたします。